

日枝神社古墳(川越市)

正面が日枝神社





拝殿





日枝神社沿革碑



日枝神社本殿付宮殿 一棟

(国指定重要文化財 建造物)

日枝神社は、延喜大御門仁が無量寿寺(淨院・真多院)を中興する際に、近江国坂本(滋賀県大津市)の日吉社(日吉大社)を勧請したといわれます。

本殿は朱塗の三間社造で、副殿直の屋根に下木・彫魚木を飾ります。二間社としては規模が小さく、聖域も簡素です。

身舎の組物は出三子ですが、昔田中央の柱一本は廻貫の上まで並び、組物は大斗對木になっています。中櫓は置きませぬ。扉飾は虹梁大帆車であさりとしています。棟を正面だけにもうけ、側面と背面にはまわさず、正面縁の両端のおさまりは棟板を切り落としただけの中継半端なもので、高欄や彫獅子をもうけなかった例見な建築に見えます。壁は切面取の角柱を虹梁型頭貫でつないで兩端に木鼻を付け、出三子・出三子を組んで中央間だけに中櫓扉取を飾ります。ただし、この扉飾は弘化四年(一八四七)頃、修理工事の折に追補されたものといえます。身舎と庇のつなぎは、兩端通りに繫虹梁を掛け、中出二連りに手換を置きます。

本殿の建立年代について、それを明確にする史料はありませんが、構造の主要部分には世初級の技法によりながら、棟飾直院の一部に室町時代末期頃の様式を認め、また、中央の後守部分に伝統的な技法により存在は認められます。虹梁に給様をほどこさず補切・切居だけとする局、柱木鼻の彫状と正門に近い側の彫状、実材木の総檜・手換のおおまかな彫刻、などは室町末期の様式です。また、正面の縁のおさまり、大棟上に飾様木をもうけず直接下木・彫魚木を載せる点、昔田の組物だけを大斗對木とする点、組物の柱間木と実材木が同じ間隔寸法でかつ弁と幅が同一な点、表子の配置が六支障の単木配置と関係なく決定されている点など、地方的技法といえます。とくに枋別木・実材木の断寸法、半木割にかかわらない表子の配置は珍しく、幕府仕事方に収載される中央の本間法とは異なる設置システムが存在したことを推測させます。

寛多院は慶長十七年(一六二二)頃に再興されており、日枝神社本殿もその一環として造営された可能性も考えられます。昭和二十一年十一月二十九日指定、滋賀県教育委員会



本殿直



日枝神社本殿付宮殿 一棟

(国指定重要文化財 建造物)

日枝神社は、慈覚大師円仁が無量寿寺(中院・喜多院)を中興する際に、近江国坂本(滋賀県大津市)の日吉社(日吉大社)を勧請したといえます。

本殿は朱塗の三間社流造で、銅板葺の屋根に千木、堅魚木を飾ります。三間社としては規模が小さく、架構も簡素です。

身舎の組物は出三斗ですが、背面中央の柱二本は頭貫の上まで延び、組物は大斗肘木になっています。中備は置きません。妻飾は虹梁大瓶束であっさりとしています。縁を正面だけにもうけ、側面と背面にはまわさず、正面縁の両端のおさまりは縁板を切り落としただけの中途半端なもので、高欄や廊障子をもうけないため簡易な建築に見えます。庇は切面取の角柱を虹梁型頭貫でつないで両端に木鼻を付け、連三斗・出三斗を組んで中央間だけに中備龕股を飾ります。ただし、この龕股は弘化四年(一八四七)頃、修理工事の折に追加されたものといえます。身舎と庇のつなぎは、両端通りに繫虹梁を架け、中の二通りに手挟を置きます。

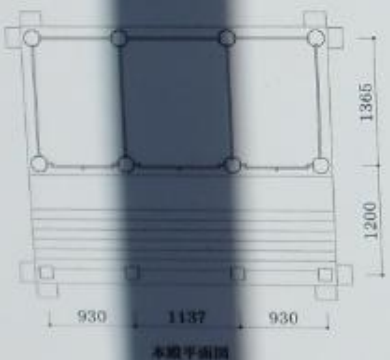
本殿の建立年代について、それを明確にする史料はありませんが、構造の主要部分は近世初頭の技法によりながら、裝飾意匠の一部に室町時代末期頃の様式をとどめ、また、中央の保守的伝統的な技法によらない地方的な技法も見うけられます。虹梁に絵様をほどこさず袖切・弓眉だけとする点、庇木鼻の形状と正円に近い渦の絵様、実肘木の絵様、手挟のおおまかな削形、などは室町末期の様式です。また、正面の縁のおさまり、大棟上に飾棟木をもうけず直接千木・堅魚木を載せる点、背面の組物だけを大斗肘木とする点、組物の枡肘木と実肘木が同じ断面寸法でかつ背と幅が同一な点、巻斗の配置が六支掛の垂木配置と関係なく決定されている点などは地方的技法といえます。とくに枡肘木・実肘木の断面寸法、垂木割にかかわらない巻斗の配置は珍しく、幕府作事方に収斂される中央の木割法とは異なる設計システムが存在したことを推測させます。

喜多院は慶長十七年(一六一二)頃に再興されており、日枝神社本殿もその一環として造営された可能性もありますが、それ以前に地方工匠の手によって建造された可能性も残されています。

昭和二十一年十一月二十九日指定 川越市教育委員会



本殿正面



本殿平面図

さて、この正面の高まりはまさしく古墳







時計回りに廻ってみる



正面が本殿/重要文化財













拝殿



さて、道路側から見る





正面は前方部で、後円部は手前の道路部分という







仙波日枝神社古墳

六世紀中期 前方後円墳頂之証
平成十年五月 日枝神社崇敬会之建

中
徑
大
善

現在、喜多院に多宝塔があるが元々はこの古墳の頂部にあった(道路新設のために削られ、多宝塔は移設されたという)ため、多宝塔古墳とも呼ばれていたという







参考ホームページ

<http://sgkohun.world.coocan.jp/SAITAMA/kawagoe/hieda.htm>

http://www.bunkouken.com/s_hiejinia.htm

<http://kofunnomori.web.fc2.com/saitama/kawagoe/tahou.htm>

http://www.tesshow.jp/saitama/kawagoe/shrine_kosenba_hie.html

